

中心市街地まちづくりビジョン



令和5年5月
中津川市

簡易版

この「中心市街地まちづくりビジョン」について

- このビジョンは、令和6年度（2024年）から10年間の、中心市街地地区（まちなか）のまちづくりの方向性を示すものです。
- まちなかには、令和5年度（2023年）に交流、学び、にぎわいの拠点「中津川市ひと・まちテラス」ができ、**新たな段階を迎えます。**
- 人口の減少、空き物件の増加、商業機能の衰退など多くの課題がある中で、まちなかは中津川市の都市拠点として、**商業活動だけでなく文化や市民活動、観光、交通の拠点など様々な役割が求められています。**
- こうした中で、よりよいまちをつくるために「**行政と民間がともに同じ未来を描けるようなビジョン**」を、策定することとしました。

ビジョン作成にあたって

行政だけで作らない

→ 関係団体や民間も交えた会議で作っていく

東京工業大学真野研究室、UR都市機構中部支社が策定に協力

行政内部でビジョンを共有する

→ 複数の部署が策定当初から参画し、策定に関わる

自分事化する

→ まちの将来を担う若手が策定の主体を担う

ヒアリングやワークショップ等の機会を通し、様々な民間事業者に関わってもらう

まちの現状、まちに関わる方のリアルな思いに沿って検討を行うことで、多くの方に共感してもらい、ビジョンを自身に関係のあるものと捉えてもらう。

ビジョン策定への取り組み



① まちのこれまでを「知る」

宿場町として栄えたまちの過去や、近年の商店街の取り組み、まちの変化などについて学ぶため、勉強会やまち歩きを実施。

② まちの今を「聞く」

まちなかや中津川市への思いについてヒアリングを実施。

(23業者・5地元区長から聞き取り)

③ データを「集める」

基本的な統計情報データの収集のほか、市民意識調査や商店街アンケート調査、東京工業大学の企画「旗さしワークショップ」を実施し。

■ 市民参加型ワークショップ

東京工業大学真野研究室と協働し、市民参加型のワークショップを開催。

まちなかに対する印象や思い、どんな課題があるかをみんなで考え、どんなアクションをしていくかを3度のワークショップを通し検討した。(参加者は延べ55名)

参加者はまちなか内外の事業者のほか、学生、商店街関係者、住民と多岐に渡る。

取組みから見た「将来こんなまちにしたい」イメージ



1. ここにしかない、中津川だけの本物を追求していくまち

- ・どこにでもあるような店舗の誘致はしない。
- ・古い町並みや建物をまちの資源として「意識して」残し活用することでエリア価値を高める。（リノベーション）

2. 豊かな暮らし、コミュニティ、人のつながりが見えるまち（まちなか居住）

- ・自分の生き方や家族のライフスタイルとやりたいことが「両立」できる。

3. まちなかに点在する資源や魅力に直接触れられる、歩いて回れるまち

- ・きれいな水辺、水路や路地、公園などの空間を活用し、体験や学びの場をつくる。
- ・インバウンドや都市部の人に移り住みたくなるような暮らしのシーン、風景を創出する。

4. チャレンジする人を応援する、学びの場や挑戦の場のあるまち

- ・新たな人やコンテンツを呼び込む（育成する）仕組みを作る。

5. 中津川駅前を観光のハブとし、まちなかを含めた観光の出発点へ

- ・まちなかの資源を活用した、観光など「非日常」的なサービスも展開。

取組みから見たまちなかの「強み・資源」と「弱み・課題」



■まちなかの「強み・資源」

- ・他のまちや観光地にはない**本物の歴史を伝える資源や路地、街並み**が残されている。
- ・**きれいでよい雰囲気**の風景や**河川・公園**があり、ここで様々な活動ができる余地がある。
- ・**まちなかで何かをやってみたい**と思っている個人事業主が中津川市には多くいる。
- ・自分に合った生き方、**仕事とライフスタイルの充実が図れる環境がある**。

■まちなかの「弱み・課題」

- ・市民の来訪目的の多くが大型商業施設に限定されており、**まちなかに人が回遊していない**。
- ・まちなかで**大きく稼ぐということは不可能**な状況であり、商業エリアとしての印象を改めていく必要がある。
- ・**事業主の多くは将来的な継続意思がない**。
- ・中山道や狭い通りを車が多く通っており、**歩きたいと思うような空間になっていない**。
- ・**お店のバリエーションが少なく**、楽しみたいと思うようなまちになっていない。

まちの魅力となりうる「資源」はある。しかし…
その多くが使われていない。なぜ？



ヒアリング等から聞こえてきたみんなの声

使いづらい・使えるかわからない

どれだけ魅力的な「資源（魅力）」があっても、それを使わなければ光り輝かない。
では、まちを使ってどうしていくか？ だれが使うのか？

どんな風につかいたいのか？



- ・ 子どもを持つ親御さんからの意見
まちに子どもたちの姿がない。**子どもを遊ばせられるようなまち**であってほしい。
- ・ まちで活動する大学生の意見
カフェなど、落ち着けるお店ができて嬉しい。もっとそういう**お店や若い人が集まれるような居場所が増えて**ほしい。
- ・ まちなかで出店したいと思っている事業者の意見
まちなかで出店するにあたって、**どこで出店できるか、何か手続きが必要なのかということ**がわからない。
- ・ まちで暮らしていてまちをよく知る人の意見
古い街並みや古民家などを残すために使っていきたい、このまちには**本物の歴史を伝える資源やストーリーが残っている**。
- ・ まちで活動する事業者の意見
いい場所はあるけど、道が細くて車も多く、**歩みにくい**のが残念。
- ・ 市外から来る事業者の方の意見
駅前がまちの雰囲気を表していない。歴史あるまちかもしれないが、駅前からそれが感じられない。**どこにでもあるようなもの**になってしまっている。

▶ **それぞれの暮らし、ニーズに合わせてまちをつかうことが、ここにしかないまちにつながる。**

みんなのビジョン

行政と民間が一緒にまちを使って、豊かな暮らしの風景をつくっていく。
その積み重ねが「ここにしかないまち」になる。





つかう中津川

～ みんなが「つかう」ことで、「ここにしかないまち」になる ～

こどものワクワクのために「つかう」

学生の学びのために「つかう」

新しく事業を始めるために「つかう」

中山道を新たな価値創造のために「つかう」

楽しくまちを歩くために「つかう」

まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」

個別・具体的な事業

(例) 公共空間活用事業

アクションプラン

ビジョンを実現させるための
個別・具体的な事業計画

※R5年度に策定し、2年を
目途に見直し、更新する

目指す6つのシーン

こどものワクワクのために「つかう」



まちなかを、親子で過ごしやすくワクワクできる場所にしていきます。ひと・まちテラスをはじめ、公園や広場、河川、時にはまちなか全体を使って、親子に遊びと体験の機会をつくります。

学生の学びのために「つかう」



まちなかを、学生が学びの機会を得る居場所にします。まちをつかって学び、学生とまちが共に成長する場所にするすることで、常に新しい視点を持ち続け、変化していくことができます。

新しく事業を始めるために「つかう」



まちなかを、挑戦者を応援し育てる場所にします。使いやすいまちなかを作り、リノベーションやスタートアップ等のサポートを行うことで、皆さんのビジネスやライフスタイルにインパクトを与えます。

目指す6つのシーン

中山道を新たな価値創造のために「つかう」



先人たちが使ってきたまちなかを、時代に合わせて使うことで磨きあげます。中山道沿いにある歴史・文化・街並みを使って、ここにしかないモノを受け継ぎ、次に繋げていきます。

楽しくまちを歩くために「つかう」



まちなかを、歩きやすく住みやすくします。居住や観光において、歩きやすいまちにすることでたくさんの人を集めます。人が集まることでそこに新たな楽しみがまた生まれます。

まちの「玄関・ロビー」としておもてなしのために「つかう」



まちなかを、人が行き交う場所にします。駅前にはまちにとっての玄関・ロビーのような場所です。まちの雰囲気伝え、行き交う人に優しく、おもてなしのできる場所にします。